

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590101036		
法人名	株式会社 創生事業団		
事業所名	グループホームグッドケア・秋田 けやき館		
所在地	秋田市外旭川字堂ノ前174-1		
自己評価作成日	令和4年1月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和4年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

玄関から廊下、リビングは落ち着いた木のぬくもりと清潔感のある雰囲気になっています。キッチンがホールと対面式になっており、調理や後片づけを職員と入居者様が一緒にしやすくなり見守りやすくなっています。日中の活動は、入居者様の希望に沿ったことができるよう体操をしたり、手作業をしたり、ホールでテレビを見てゆっくりしたりと様々です。感染症対策と隣り合わせで、出かけることが制限された中でも、ドライブや園庭散歩など行っていました。また、季節を感じられる作品制作・行食など、入居者様と一緒に作成・企画してきました。月1回のグループ回想法を取り入れ、「60年前の秋田」について、秋田大学 浅野先生に來所していただき、けやき・さつき館合同で参加しています。昔の懐かしい写真や音楽、昔使っていた馴染み深い家庭用品などを見たり、触れたりしながら、昔の経験や思い出を語り合っています。入居者様の身体状況は様々ですが、入居者様の思い・願い・楽しみなどを大切に、ホール全体が家族と思えるような環境作りに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

声かけの仕方ひとつで利用者が心穏やかに過ごせることを管理者、職員は理解しており、利用者主体の支援となるよう職員の心得として表し、実践に向けて努力しています。コロナ禍のため、現在は実施できていませんが、今後は行事等を企画、実施し、地域と接点を持つ支援をしていきたいと考えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心身を健康に」「心を癒し」「満足できる毎日を送る」を掲げており、利用者に家庭的な雰囲気の中で穏やかな暮らしと、自分らしい生活が守れるようホームの理念を作り上げ、地域の高齢者やそのご家族の助けになるようなホーム作りを目指しています。また、事業所理念を共有し実践に努めている。	どのようなホームでありたいかを皆で話し合っって理念を作り上げています。研修や申し送り等で取り上げ、別に掲げている職員の心得と共に利用者支援を心がけています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア招致、地域商店街の生け花展、吹奏楽部の定期演奏会に招待していただき、地域住民や学生などと交流を行っている。また、散歩、買い物など積極的に外出、他事業所の利用者様との交流なども行う。 * コロナウイルス感染症対策により外出機会が減り交流機会が減少している。	コロナ発生前に行われていた交流はありませんが、訪問理容の方は定期的に訪れていますが、コロナ終息後には幼稚園児とも交流を図りたいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	高校生のボランティア活動の受け入れをしている。(コロナウイルス感染症対策により受け入れできず) 地域住民へ向け、認知症の理解など情報発信していく予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回の会議を実施。近況報告や意見交換を通じてサービス改善に向けている。コロナウイルス感染症対策により8月は各会員へ書面による開催で対応している。	家族の都合が合えば参加するということですが、地域代表の参加がなく、サービスの向上に繋がる十分な話し合いが行われておらず、会議が運営に活かされておりません。	会議を運営に活かすためにも地域の方に参加協力を呼びかけてメンバーを増やしなが、地域との繋がりを深めていかれることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当者とは、日頃から相談連絡等こまめな情報交換を行っているほか、各報告書の提出等で実情に即した連携を図り、信頼と協力関係を築くよう取り組んでいる。	コロナに関する対応等、その時々に必要なに応じて相談し、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関近くに階段・エレベーターがあり危険な為、建物の構造上玄関の施錠をせざるを得ないが、それ以外の身体拘束は行っていない。身体拘束がもたらす多くの弊害を認識し、身体拘束等排除の為の方針を揚げ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	危険回避のために玄関、通路のドアをロックしています。身体拘束をしないケアのために日常的に話し合いながら対応を検討しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを職員が閲覧できる所に設置しているほか、職員の言葉づかいなどが虐待につながらないように努めている。また、虐待が見過ごされることがないように、細やかな観察にも努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、理解を深めつつ、必要性のある方には制度活用の橋渡しができるようにしている。また、関係機関との連携も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は多少時間をかけ、すべての書類について説明し、家族の不安や疑問点については懇切丁寧な説明に努め、質問に対しても理解・納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方からの要望や意見には迅速に対応するよう心がけている。また、家族からの意見などは面会の機会に利用者の様子をお話ししながら、要望などを聞くことにしている。経費の必要な事項については法人に要望している。	利用者、家族の意見、要望に対しては都度対応を検討し、改善に繋げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや随時個人面談で、職員が意見や提案を行える機会を設けている。気付いたことを提案することにより、小さなことでも改善するよう努めている。	職員が何でも話せる環境づくりに努め、気付いたことを話し合っています。申し送りで伝える等、情報を共有し、ユニット間の連携も図られています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況や資格取得によるスキルアップなどを評価し定期的に人事考課を行っている。同時に職員が向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めているほか、有給休暇の取得向上にも配慮を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する研修会の機会を増やし、日々のケアサービスの中で利用者の状態の理解やケアをどのようにしたら良いかを習得することにより、日々の業務に反映できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「グループホーム連絡会 ケアパートナーズ」が実施するグループホーム相互交流訪問活動をとおり、他施設のケアサービスなどを学び、質の向上を図るための機会としている。同会が開催する勉強会に、可能な限り参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居予定の段階で、管理者が家族や居宅ケアマネからできるだけ詳細に本人の様子を聞くようにしている。また、本人とも面接をし状況把握はもちろん困っていることや不安に思っていることなどを聞き入居後のケアサービスに繋げるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族からこれまでの経緯や本人の状態、困っていること、不安なこと、要望を聞きその情報を職員全員が共有したうえで介護に当たるよう努めている。入居後も家族が来訪した際は、利用者の状況を報告したり要望を聞くよう努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干し、たたみや掃除など利用者が得意とすることを大切に、教えていただきながら一緒に作業を行う。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に着た際は、落ち着いて穏やかに過ごせるよう配慮しながら、本人の日常の状態を話し、家族からの要望等を聞くように心がけている。また、日々の積み重ねによる信頼関係を深め、ご家族と事業所が共にご本人を支える関係を築いている		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の写真を見ながら利用者の過去と重ねた話を聞き出し、懐かしい話に花を咲かせている。また、面会・外出・外泊はご本人の体調に問題がなければ、自由にしてもらっているが、コロナウイルス感染対策で不要不急の面会・外出は控えていただいている。	入居時のアセスメントや日常会話から情報を引き出し、一人ひとりの情報を支援に活かせるよう取り組んでいます。訪問理容の方との関わりも大切にしている他、通院対応してくれる家族とも連携して支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の良い関係性を保てるよう、必要時には職員が介在しながら対応を行っている。また、新たな関係性構築時には、問題が生じないように細心の配慮を行いながら支援に努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望に沿った関係機関の照会をするなど、退居した施設利用者の家族からの相談に応じ、永続的な支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族との情報交換を密に行いながら、日常生活をとおして利用者本人の希望や意思を把握し、不都合なことや不具合があったには可能な限り本人の希望に沿って対応し、ケアプランに入れるようにしている。	普段の利用者の行動、職員と二人きりの時の会話から意向を汲み取るようにしています。記録に残して申し送り、情報を共有しています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のオリエンテーションや事前に家族から聴取したこと、また、入居後把握したことなどを含めカンファレンスやミーティングで情報共有を行い、ケアプランに盛り込んでいる。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人ファイル、日報、月間ケース記録により、一人ひとりの状態把握に努めると共に、申し送りやミーティングなどを通じて施設全体での情報共有に努める。また、利用者の何気ない一言ひとことに注意をはらいながら、その日の状態に気を配っている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり、ご本人の意見・要望などを聞き、全職員の意見を聴取した上で、ご家族の意見・要望も把握したものをケアプランにしている。各居室に担当を配置し、状態により必要なカンファレンスを行い、利用者の変化の把握に努めている。	担当職員と計画作成者が中心となって介護計画を作成しています。他の職員の意見も聞き、利用者、家族の意見も取り入れています。	日常を記録していますが、介護計画が支援に活かされているか不明瞭です。PDCAサイクルの繋がりができるような記録の仕方の工夫を期待します。
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイル、月間ケース記録を介護計画書の見直しに活かしている。また、利用者の状態に変化があった場合などには、速やかに職員全体が対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学校吹奏楽部の定期演奏会、地域商店街より生け花展へ招待していただき参加している。また、定期的に花の苗もいただき、利用者が中心になり施設の花壇に植え成長を楽しまれている。利用者が住み慣れた地域で安全に楽しみのある生活を続けることができるよう支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の心身の状態や希望に適した病院の受診(往診も含む)を支援している。特に専門的な病院受診は日頃かかりつけの病院から紹介状をもらい本人に適した治療を受けられるようにしている。また、かかりつけ薬局にて、居宅療養管理指導をしていただき、薬の管理指導・服薬指導・アドバイス・副作用の説明を受けることができ、専門職同士が連携して支援を行っている。	入居前からのかかりつけ医で継続受診しています。協力医による訪問診療及び緊急時の対応が可能であり、通院できなくなった場合には協力医に変更しています。かかりつけ歯科医で受診している方もおり、訪問歯科診療医も確保しています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、利用者の日々の状態を把握し、変化があった場合には必ず看護師に報告・相談を行うほか、必要に応じて看護師自らが医療機関に連絡し、助言や指示を受け、協働して支援を行っている。		
30		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはグループホームでの生活を「情報提供書」により医療機関に詳しく伝え、環境の変化によるダメージが少ないよう対応している。また、入院中も的確な状態把握により早期退院に向け支援し、院内カンファレンスにも積極的に参加し、病院関係者との関係づくりを行っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応にかかわる指針」を策定し、入居時に家族に説明している。また、重度化した場合、主治医、看護師、家族の治療方針の情報を職員も共有し、利用者の状態に応じた介護サービスが提供できるよう努めている。	実績はありませんが、家族の意向に沿えるよう体制を整えています。現在対象者がおり、家族がホームでの看取りを希望していることから、終末期に向けて医師、関係者が連携して支援できるよう取り組んでいます。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応できるように、マニュアルを整備し、いざという時は迅速な対応ができるようにしている。また、状態によっては、一人で対応せず、すぐに看護師・管理者、近くの職員に報告・相談するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行っている。(1回は夜間(想定)地域との協力体制については、運営推進会議の場でも、話題に上げ検討している。	敷地内に他サービス事業所が併設され、共に地域の避難場所となり得る建物構造です。食料を備蓄し、発電機の準備もしています。	地域の具体的な協力体制を再考すると共に、2階の利用者のスムーズな避難に繋がる訓練の積み重ねを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の症状に隠れがち守られるべき人格と人権を、カンファレンスや研修を通して再確認し、その方に合った声掛けやタイミングをするよう心がけている。	職員の行動を利用者が見ていることを意識し、対応の仕方や声かけに気をつけて利用者への配慮を怠らないように気をつけています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者の言葉や行動を常に注意深く見守り、どんなことを希望しているか推測しながらそれにあったケアサービスを心がけている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気の良い日にはドライブや舗装された庭を散歩したり、掃除・洗濯の干しやたたみ・食事の準備や片付けを手伝いする利用者もいる。また、レク活動にも声を掛けているが、利用者本人の意思を大切に、無理には促さず自分の時間を過ごしてもらうようにしている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	何か欲しいと利用者から訴えがあった場合は、職員と一緒に掛けたり家族にお願いして対応している。また、外出の際は、少しでもおしゃれをしていただくよう心がけるとともに、希望者に、月1回訪問理容日があり髪のカットや顔そりなどもおこなっている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前の台拭き、食後の食器拭きをお手伝いしていただいている。また、季節感を演出したメニューや配膳に心掛け、行事食では、ご当地グルメなどあり食事の時間を楽しんでいただいている。	献立、食材の手配は法人本部で行っていますが、随時献立の変更を行い、だまこ鍋等、季節のものを一緒につくり、おやつづくりも一緒に行っています。家族が用意した食器で食事をしている利用者もおります。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の摂取量を日々記録し、必要な栄養摂取ができるよう支援している。また、管理栄養士の献立に基づき、嗜好を考慮した細やかな食事内容の変更や状態に応じた療養食にも対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々の口腔ケア(口腔衛生、口腔ケア体操等)の取り組みを徹底しているほか、年一回の無料歯科検診を実施し、口腔内異常の早期発見に努めている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	認知症の進行もあり、排泄用具を減らすことは難しいが、一人ひとりの排泄状況を把握し、なるべく失禁や失敗のないよう努力している。また、自身でトイレに行く利用者も、一日一回は排泄の様子を確認することになっている。	失禁の間隔等、排泄状況を確認し、チェック表を活用した個別の支援が行われています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排泄状況の記録、確認を行いながら看護師が中心となって原因や影響を把握し、食事内容(水分摂取量)や形態の工夫、更に、レクリエーションなどの時間にも軽体操を取り入れている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間は決めてしまっているが、できるだけゆっくり入浴してもらうよう心がけている。入浴前に拒否がある利用者も声掛けに工夫やタイミングを計りながら入浴してもらうようにしている。また、ゆず湯など、季節感の演出に配慮を行っている。	週2回を目安に入浴しています。拒否があったり熱めのお湯が好きな方の希望に沿う等、無理強いせず、本人の意向を大切にゆっくり入浴できるよう支援しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	グループホーム入居前の生活習慣やその日の体調に配慮しながらお手伝いをしてもらっている。また、一人ひとりの体調が違うのでその利用者の体調に合わせた室温調整を心がけている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となり、薬の目的や副作用について職員に周知している。症状の変化(悪化・改善)が認められた時は、医療機関への報告と同時に必要な助言・指導を受けており、看護師中心とした服薬支援に反映している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味活動や嗜好品を、参考にしながら支援している。また、レクリエーション時には、毎回同じことの繰り返しではなく、工夫しながら行ったり、職歴や趣向を活かしたその方ならではの役割を持っていただき、ハリのある生活が送れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い時期は、散歩や散歩に出掛けている。季節の花見やドライブや展示会に出かけ、利用者の気分転換を図っている。また、定期的にご家族と一緒に外出されるご利用者は、その機会が途切れないようご家族との連携を心掛けているが、コロナウイルス感染症対策により、外出機会が減少している。	外出の希望になかなか応えられない状況が続いていますが、車窓から紅葉狩りを楽しんだり、花壇に花を植え、園庭の藤棚まで散歩したりしながら外で活動できる機会をつくっています。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解のもと、当グループホームでは、全員金銭管理は行わず、外出時の買い物があれば立替を行っている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、施設内から電話がかけられるよう介助したり、本人宛にいつでも電話や手紙を受けられるよう中間支援を行い、外部との接触機会を設けている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清掃や環境整備を心がけ、自然素材を多用することでぬくもりが感じられる。また、四季を感じられる装飾品を利用者と協働で作成・展示し、遊び心と季節感のある環境で生活できるよう努力している。	共用の場所は掃除が行き届き、食卓テーブル、椅子が余裕をもって配置され、トイレ、浴室、居室の出入り口も広く造られていて快適に過ごせる生活環境がつけられています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の行動を抑制せず、ご本人の意思で自由にホールや居室で過ごしていただけるような雰囲気を作っている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた馴染みのあるダンスや寝具などを持ち込まれる方も多く、利用者のADLと動線を配慮し、しつらえを工夫している。	壁紙や照明、障子窓が和風の趣きがあり、布団を敷いて休む方や位牌を置いている方もいて、落ち着いた雰囲気の中で生活できる環境となっています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てを職員中心に決めず、介助が必要な方は必要に応じたケアを提供するようにし、個々の残存機能を見極めるようにしている。利用者の動線上に危険なものはないか、手すりや車イスなどの福祉用具と設備は適切か安全を心がけている。		